

①

紙で森をつくろう！

四国中央市のプレアート体験事業ドキュメント
2023年12月3日（日）

美術講師 松岡美江

自然を大切にする！

日本一の紙のまち四国中央市の紙製品に絵を描いたり、葉っぱや小さな生き物、果実をつくり、四国中央市で出たリユースの段ボールを骨格にして、四国中央市の豊かな森や山をつくります

準備物

四国中央市の企業様からいただいた様々な種類の紙や水引・段ボール・新聞紙・花紙・折り紙・紙テープ・絵の具・マジック・ノリ・ハサミ・カッター

テーマ

- ・自分たちが住んでいる地域のことを知る
- ・生活の中で自然を守ることとは何かを考える

水引や紙芯・茶葉などの出がらしが混ざった紙・再生紙の手拭きやトイレトペーパーなどを提供していただいています。

紙の原料にもなる木々に見立てて、段ボールを積み木のように組み立て、法皇山脈を目指そう！



午前の部



午後の部

今日どうやってここまで来たかな？そんな問いから活動が始まりました。普段よく使う車に必要なエネルギーの話から、みんなが住むこの地球についてや、大人になる頃まで豊かに暮らして行けるように頑張っていることなどに触れ、四国中央市の企業様から提供していただいた素材や、リユースの段ボールについて説明をしました。夏にはひうち灘の海をつくり、今回は法皇山脈に着目し、紙の原料でもある木々を製作します。

家族と試行錯誤して、出来上がりをイメージしていきます。

土台がとっても大事なポイントだね！

段ボールの端と端に切り込みを入れ差し込むように組み立てていきます。

木の幹になる部分は太く大きくしたいな・・・三角にしようかな？

どんどん繋がっておもしろい！

小さな葉っぱを表現したいな。

積み木のような自由さから、「乗れそう！恐竜にしようかな？」とオリジナル作品へ

全体のバランスを確認しながら、上へ上へ伸びていきます。

製作の中で、硬い段ボールを切るにはどうすればいいか、バランスをとるには？段ボールの断面を面白がったり、色んな発見や成長が見られます。

細やかな葉っぱの部分をメインに表現する子や、どれだけ大きな木になるかバランスを調整する子、季節を意識した作品などそれぞれの工夫が光る木々が形になっていきます。段ボールの切り込みの長さや配置など何度も壁にぶつかりながら、小さな段ボールの苗から木が育ってきているようでした。

季節がらも相まってクリスマスツリーのようなディテイルも表現されてきました。

子どもたちの柔軟な発想と、大人の知恵を上手く融合させて！



何度も何度も調整を繰り返し、独創的な成り立ちを成立させ、勇ましい木へ！



作品の中に自分なりの世界観が広がり、星空が輝く美しい木になりました。

動物もききました！

いよいよペイントタイム！どんな木にするか想像を膨らませながら、カラフルな絵の具を選んでいきます。色づくりは実験が始まったり、低いところは寝転がって塗り、低いところは職人さんモードに突入です！



デコレーションが光っています！

全体を一枚のキャンバスのように捉え、感覚的に木を描くように進めていく子や、計画的に事前に花びらのパーツを別に準備をし、花が散る様子を表現する子など大変完成度が高かったです。



色んな子どもたちの発想が新たなアイデアへ！



見る角度で変わる作品や、隠れた仕掛け作品も！

子どもたちの中に季節をイメージする配色があり、秋らしい紅葉が鮮やかな木や、実りの多い果樹、春を表す桜、みんな大好きなクリスマスツリーなど日本らしい四季折々の木々が見られます。



着色が終わると、紙のパーツやシールを使って装飾スタート！



子どもたちからみる世界ってどんな感じだろう？とワクワクするようなスタイルで製作中！

木の幹から上までのゾーンごとにテーマを設けて、色々なフルーツが表現されていきました！



小さなパーツを組み合わせて、一枚一枚丁寧に葉っぱの脈の部分まで着色をしています。

③

紙で森をつくらう！

四国中央市のプレアート体験事業ドキュメント

2023年12月3日（日）

美術講師 松岡美江



一つの種から命が芽吹くように、段ボールを葉っぱに見立てる子や、様々な植物を表現する子も！



折り紙や花紙など色んな素材を組み合わせていると、絵の具の時に使った手袋が！なんだか星の形に見えてきた！？



一枚の素敵なワンピースのようなデザイン性のあふれるテキスタイルに！



ここにクモがおるんで！とこっそり教えてくれました♪

大きく深呼吸。木々は人々の生活の中でたくさんの役割を担っています。しかし今大きく息を吸い込めるのはみんなの側に木がいてくれるからこそです。木が成長するまでに約40～50年かかると言われています。製作を通して、一本の木と向き合う時間ことで、今どのくらい木が消費され、未来のためにどのような活動が行われているのか、木々だけでなく環境のために自分は何からできるのかを考えるきっかけになればいいなと思います。



山までにはまだまだ道のりが長いですが、一人一人の一本の木が集まり、小さな森のような空間へ。実りの多い木や日本の四季を表現した木など、子どもたちが見ている世界には日頃私たちが見過ごしてしまっている気づきが溢れています。子どもたちの学びの速度に合わせて、大人たちも一緒になってアートを楽しみながら心をほぐす時間にしてほしいです。



美術講師 松岡美江 producer 三好和彦（ZNEM）